

PLES Report No.25

日常の英語化：ショッピング

田中茂範

PEN言語教育サービス

はじめに

海外にいけばショッピングがたのしみの一つです。でも、「試着してもいいですか」と尋ねて試着したものの店員とのやりとりがうまくできなかったという話を聞くことがよくあります。また、棚に入った品物で「もっと違う色の服がほしかったのに」とか「右から2つ目の靴」とうまくいえなかったといった経験をした人も多いのではないのでしょうか。ここでは、ショッピングのための英語をみていきます。

「ちょっと見ているだけです」

まず、以下の会話を見てみてください。

A: May I help you? (何かお探しですか)

B: Not right now. Just looking, thank you. (今は、ちょっと見ているだけです)

A: Just let me know if you have any questions. (何かありましたら連絡ください)

B: OK, maybe later. (わかりました。あとでお願いするかもしれません)

「ちょっと見ているだけ」は Just looking. だけで OK ですが、I'm just looking, thank you. あるいは I'm just looking right now, thank you. といえば丁寧ですね。

実際に手に取ってみたいという商品もあるでしょう。その際に、「触っていいですか」と許可を求める場合があります。その決まり文句は Can I touch this? です。「いいですよ」と Sure. といい、「ガラス製品以外なら大丈夫です」と Yes, everything but glass items. といいます。この but は「～を除いて」という意味です。手が届かないところにあるものだと店員が「お取りしましょう」という意味合いで I'll get it for you. といってくれるでしょう。

試着をしたものの

素敵なドレスを見つけて試着したいとします。その際の定番表現は Can I try this on? です。Can I try this? は「ちょっと食べてみてもいい?」といった意味合いになります。試着の場合は try this on の on が必要です。試着をしてみて、それを気に入り、購入という場合もありますが、「ちょっと思っていたのとは違う」とか「色が合わない」とか「私には似合わない」などといったような状況もあるでしょう。そうした場合、きっぱりと英語で思いを伝えることが必要です。以下の会話はその例です。

A: How did you like that dress? (そのドレスは気に入りましたか)

B: It's perfect. I'll take it. (バッチリです。買います)

A: How are those pants? (ズボンはいかがですか)

B: Well, they are not quite what I had in mind. (そうですね、ちょっとイメージしていたのと違います)

A: Did you like it? (いかがですか)

B: Well, it's not my color. (ちょっと、私の好きな色ではありません)

A: How did you like it? (お気にめされましたか)

B: Well, it didn't look very good on me. (うーん、私にはちょっと似合わないですね)

ドレスを試着したという状況で、店員が How does it fit? と聞いてきました。少し長すぎれば It's a bit too long for me. といえいいですね。「同じドレスで小さ目のものがあるか」をたずねるには、Do you have a smaller size in this?といえます。

「ちょっと派手すぎる」という場合には It's a bit too much for me.といいますが、much の代わりに loud もよく使われます。日本語では「にぎやか」といった感じです。「地味」は tame、「おとなしい」は conservative という言い方をします。

買いたい商品の名前

もちろん、何を探しているかを店員に聞く場合もあります。日本語でも衣類に関しては外来語が使われますが、発音が違っていたり、言い方が違ったりすることがあります。「～を探しています」は I'm looking for ～ですが、～に入る表現のいくつかを紹介します。

男性用

スリーピース a three piece suit; 高級シャツ a dress shirt; ズボン pants;

スウェットシャツ sweat shirt; ベルボトム bell-bottoms; T シャツ T-shirt; ブレザー blazer;

ポロシャツ polo shirt; ベスト vest

女性用

ブラウス blouse; ワンピース dress; アンサンブル twin-set; レギングズ leggings; 巻きスカート wrap around skirt

blouse は「ブラウス」ではなく「ブラウズ」になるので発音に注意してください。試着室での店員とのやりとりで、「このワンピースで色違いがほしい」とか「ロングスリーブのものがほしい」とかいいたい場面があるでしょう。以下はそういう時の表現です。

色違いがほしい

Do you have this dress in a different color?

ロングスリーブのものがほしい

Do you have this in a long sleeve?

青の V ネックセーターありますか

Do you have a V-neck sweater in this blue?

この上着に合うズボンありますか

Are there pants that go with this top?

カバンを買う場で次のような表現も押さえておきたいですね。

違う留め金のついた同じカバン

Do you have the same bag with a different clasp?

長い肩紐のカバン

Do you have one with longer straps?

もっと短い手提げひものカバン

Do you have something with shorter handles?

靴の場合は足にちゃんと合うかどうか大切です。そのための表現として以下を紹介しておきます。

These are too tight for me. (きつすぎます)

too big for me (全体的に大きすぎます)

too narrow for me (幅が狭すぎる)

too wide for me (幅が広すぎる)

「かかとが私には高すぎる」といいたいときは、These heels are too high for me. といえいいです。

「ちょっと〜しすぎる」というときは a bit too tight (ちょっときつすぎる)のように a bit あるいは a little bit を使います。

ちなみに、「少し履いていていいですか」と聞くときはどう表現するでしょうか。wear を使い、Can I wear these right now?といいます。身につける動作は put on で、身につけている状態は wear を使うと学んだことがあると思いますが、「履いている」はまさに wear ですね。

棚の位置を示す

商品が棚やケースに置かれている場合があります。「一番下のやつです」とか「右側のです」など日本語で言いますが、棚の位置を正確に表現できるようにしておくといいですね。下にぜひ知っておきたい表現をまとめておきます。

一番下の the one on the bottom

一番上の the one on the top
右側の the one on the right side
左側の the one on the left side
真ん中の the one in the center
右から三番目の the third one from the right
左から二番目の the second one from the left
上から4列目の the one on the fourth row from the top
下から2列目の the one on the second row from the bottom

実際には次のような会話が行われることになるでしょう。ここでは、サングラスが欲しいが、「棚の上から3列目の右から2番目のやつ」といいたい状況です。

A: May I help you? (いらっしやいませ)

B: Yes. I'd like to try on a pair of sunglasses in this case. (このケースのサングラスを試してみたいんですけど)

A: Sure. Which ones would you like to see? (ええ、いいですよ。どれをご覧になりたいですか)

B: The pair on the third row from the top, and second from the right. (上から3列目で、右から2番目のサングラスです)

A: The blue ones? (青いやつですか)

B: Yes, those. (ええ、それです)

ここでちょっと注意しておきたいのは、サングラスは **sunglasses** と複数の形で表現するということです。正式には **a pair of sunglasses** となります。そこで「そのサングラス」と言いたいときは **the pair** と言います。そして、**The blue ones?** は **The blue sunglasses?** ということなので、**Yes, those.** となっています。

返品の場合

商品を購入したものの、サイズが小さすぎたということもあるでしょう。その場合、返品をしたいとします。以下は、その際の会話例です。

A: May I help you? (いらっしやいませ)

B: Yes, I bought this blouse yesterday, but it's a bit too small for me. Can I return it? (昨日、このブラウスを買ったんですけど、私には少し小さすぎます。返品できますか)

A: Would you like to exchange it for a different size? (違うサイズのものとの交換なさいますか)

B: Well, actually I've decided it's not quite right for me. Could I have cash back? (いや、実は、結局、私にはちょっと合わないと思っています。返金をお願いしたいんですけど)

A: Do you have your receipt? (領収書をお持ちですか)

B: Yes. Here it is. (はい、これです)

A: OK, wait a moment, please. (ちょっと、お待ちください)

B: Thank you. (ありがとう)

返品なので Can I return it?と手に持っている商品を見せて Can I return this?がキーフレーズになります。店としては商品を買ってほしいので別のものを勧めてくるでしょうが、いらないときは、ここでの会話例のように、きっぱりとそのことをいい、返金を求める必要があります。返金を求めるときの決まり文句は Could (Can) I have cash back?です。その際に日本でも同じことですが、領収書 (the receipt) は必須です。

その他諸々

ここではショッピングの際に知っておきたいことを思いつくまま少し紹介します。「金」は gold ですが、「純金」は pure gold あるいは solid gold です。gold plated という用語が使われたらこれは「メッキ」なので注意しましょう。「これは何金ですか」と確認をとるときの表現は How many karats is this? とか What karat gold is this? です。

英語で earrings といえば、「イヤリング」と「ピアス」の両方を指します。そこで「ピアスでないイヤリング」は clip on earrings、「ピアス」は pierced earrings といいます。ピアスを手にしてデザイン等が気に入り、「これでピアスでないものはありますか」と聞くときは Do you have these earrings in clip-ons? といいます。

香水を買う時はサンプルを試しますが、香水のサンプルがほしいときは Do you have a tester for this perfume? と tester という表現を使います。香水や化粧品を試すときの肌の特徴についても英語で表現できるようにしておきたいところです。「敏感肌」は sensitive skin、「かさつきがちな乾燥肌」は dry skin、「オイリー肌」はそのまま oily skin といいます。部分的にてかり、部分的に乾燥するという「混合肌」のことを combination skin といいます。日本語でも「コンビスキン」というようですが、この英語から来ています。

おわりに

最後に、商品を「別々に包んでほしい」というときは、Can you wrap them separately, please? で OK です。「値切る」ときは Is this the final price? といえば、スマートですね。「もっと買えば安くなりますか」と Do I get a discount if I buy more? で通じます。支払いの際にお釣りをくれない状況では Excuse me, where is my change? と毅然とした態度でいいでしょう。